

会議録（3）

発 言 者	発 言 内 容
春名会長	<p>協議事項 「入間市介護予防・日常生活圏維持ニーズ調査及び在宅介護実態調査について」（書面会議）</p> <p>入間市介護予防・日常生活圏維持ニーズ調査及び在宅介護実態調査の実施方法について、審議会委員の皆さんにご覧いただき、ご意見・ご感想などを「意見書」にご記入いただいた後、返信されたものをまとめたものです。</p> <p>（各委員の意見書）</p> <p>新型コロナウイルス感染症禍のもとでは、訪問調査よりも「郵送による実態調査」とし、質問内容（基本的な調査項目）に「入間市独自の調査項目」を追加した質問票の作成で良いと思う。郵送による実態調査のみとする。</p>
中林副会長	<p>2年前の調査では、新型コロナウイルスに関する調査項目が無く、現在、高齢者の生活状況や支援サービスが変化している状況です。</p>
小林委員	<p>特にありません。</p>
高山委員	<p>調査内容から入間市の高齢者は意外にもご健在であるとの印象を受けました。</p> <p>14頁の経済的にやや苦しい方には、当センター（（一社）入間市シルバー人材センター）に会員登録いただきまして、4～5万円の収入を得られるよう就業機会を支援できればと思います。</p> <p>また、当センター会員が要支援者の方へサポートができればと思いますが、家事援助事業への興味や希望する女性会員が減少している現状を残念</p>

発 言 者	発 言 内 容
<p>瀧澤委員</p>	<p>に思いました。</p> <p>まだ、入間市高齢者福祉審議会委員を拝命したばかりですので、お恥ずかしいのですが、令和元年度に入間市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び在宅介護実態調査を行っていたことすら知り得ませんでした。</p> <p>令和2年3月にまとめた「結果報告書」細部に亘っての調査項目で大変だったでしょう・書いてある結果はわかりましたが、これをどのように評価し、検討し、令和3年度・4年度事業にどう反映させたのかお聞きしたい。</p> <p>令和4年度も、お国の意向で同様の調査を行うとのことではありますが、実態を正確に把握するには、介護認定調査員さんによる聞き取り調査がベストだと思います。どちらにしろ、調査結果が今後どう生かされていくかによって、調査の必要性も問われると思います。</p>
<p>吉田委員</p>	<p>今後、感染がどのように拡大されるのか、収束するのか、予測できないので、必要なサンプル数が確保できるので、郵送のみの対応で賛成いたします。</p>
<p>小池委員</p>	<p>①国が望ましいと回答するサンプル数を上回っているため、郵送のみのアンケート調査のみに異論ありません。</p> <p>②コロナ禍ということも鑑みると、調査員さんの協力は無しということに異論はありません。調査される方々も短期間を希望されると思います。</p> <p>感染防止のため、近隣の市では認定調査を行わず、(更新のみ)認定有効期間の延長しているのが現状です。感染拡大防止の観点から必要と思います。</p>
<p>松下委員</p>	<p>調査の回収結果、在宅介護実態調査の回収率が50%(44.8%)に</p>

発 言 者	発 言 内 容
森本委員	<p>満たないのは残念です。</p> <p>調査は対象者（住民基本台帳）の協力無くてはできないことですが、より多くの結果を求められる方法がないか検討が必要と思われます。</p> <p>各地区包括支援センターの協力などによる調査依頼、回収など。</p> <p>調査方法は、郵送による方法のみで良いと思います。</p> <p>ただし、回収率が上がるような何らかの工夫は考えておいた方が良いでしょう。</p> <p>先日、とあるアンケートの依頼で、記入用の筆記用具を同封されていました。（費用の問題は出ると思われますが。）</p>
川名委員	<p>多くの質問に答えていただいた市民の皆様には感謝申し上げます。来年度の調査も郵送で問題ないと思います。（しかし、近い将来はスマホでの回答も可能な調査もありうるかもしれません）</p>
原田委員	<p>国の指針（600サンプル）に対し、前回の調査で回答11サンプル（ニーズ調査・・・74%）、672サンプル（実態調査・・・44.8%）の実績から、「①郵送による調査」で良いと考えます。</p> <p>聞き取り調査の218件との相関が今回どのように反映されるのか。また、郵送数について、回答数を勘案し再検討が必要かもしれません。</p>
木村委員	<p>コロナ禍の現状を考えると、郵送による調査方法のみになることはやむを得ないと思います。</p> <p>郵送による方法のみに賛成いたします。</p> <p>いずれにしても、調査結果によりより良い方向性が築けますことを強く望みます。</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>その他 各委員からご意見・ご要望などを記入していただいたものを取りまとめたものです。</p>
春名会長	<p>介護認定調査員の聞き取り調査で聞くことも、可能であれば「郵送による調査の項目」に加えるなど工夫した『実態調査』にする。</p>
中林委員	<p>特にありません。</p>
小林委員	<p>特にありません。</p>
高山委員	<p>当センター（（一社）入間市シルバー人材センター）会員 1,500 人の平均年齢は 74 歳程度です。入間市の元気な高齢者が会員として働いていらっしゃいます。また、働いているからこそフレイルが予防できていると実感しています。センターの役割はこれからも元気な働く高齢者を増やし、要支援・要介護者を増やさないことに尽力し、少しでも経済的にも潤いを与えられたらと考えます。さらに老老介護的にはなりますが、援助を必要とする方のお手伝いができる会員を増やし、皆様のお役に立つことができればと存じます。</p>
瀧澤委員	<p>認知症対応型共同生活（グループホーム）は一度選定されたのに、途中で辞退とありますが、差支えなければ、内容をお聞かせいただきたい。</p>
吉田委員	<p>特にございません。今後ともよろしく願いいたします。</p>
小池委員	<p>実態調査のアンケート結果では「無回答」が多いと感じました。原因と対策などの検討も必要と思いました。</p>

発 言 者	発 言 内 容
松下委員	特にありません。
森本委員	<p>○資料1-1について</p> <p>3つの地域密着型サービスとも決定数が0であることは、需要が満たされない状態が続くこととなり、高齢者福祉にとって大変なことだと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応募数が0であった要因について分析はされていますか？ ・グループホームで辞退届が提出された理由はなんでしょう？ <p>○資料1-2について</p> <p>応募した2法人とも、市の希望である多床室「40床」が「30床」であったことの原因は何でしょうか？</p> <p>いずれも、開示できる範囲で結構ですので、説明が聞きたいです。</p>
川名委員	<p>資料39</p> <p>問6【地域での活動について】Q1（P54～61） 無回答が多くみられます。参加していない方も無回答としているのかもしれませんが、原因として質問がP52Q17「趣味はありますか」、P53Q18「生きがいがありますか」の次に来ているからかなと感じました。Q17とQ18を入れ替えてはいかがでしょうか？趣味の有無を回答してからの方が、P153の表の記入に入り易いと思います。</p>
原田委員	<p>報告事項1 地域密着型サービス施設の整備について</p> <p>定期巡回・随時対応型訪問介護看護</p> <p>小規模多機能型居宅介護</p> <p>認知症対応型共同生活介護</p> <p>→結果として今年度への整備継続は賛同する。諸事業もコロナ課での影響を感じます。</p>

発 言 者	発 言 内 容
木村委員	<p>報告事項2 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）の整備について 県より、先進的な推進。大いに評価します。2025年前の展開は素晴らしい。</p> <p>報告事項4 その他 高倉地区のケアハウスが直近で整備され、夏に入居開始、明るいニュースである。地域の方に報告したい。</p> <p>私見 昨年11月29日の「入間市高齢者ネットワーク推進会」のACP「人生会議」の講演会を受講した医師会などの在宅医療の取組が理解できましたが、この取り組みは「訪問介護ステーション」を中心に推進されると思います。この取り組みは広域連合での取組ですか（広域24ステーション その内入間市3ステーション） 講演医師（斎木先生）は入間市在住とのこと、心強く感じました。</p> <p>特にありません。</p>

議事の内容・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

2022年 2月 28日

議 長 の 署 名

春名 恭一